

ともに…

新年あけましておめでとございます。

日頃から地域の皆様には笠松小学校のPTA活動に、多大なるご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

笠松小学校PTAは、本年度は「ともに学びあい・気づきあい・認めあい・育ちあつ…」をスローガンに目標に向かって、運営委員会をはじめ父親委員会・母親委員会・会報委員会・校外生活委員会など、それぞれ

の委員会が工夫を凝らし、親子と地域が一体となって体験し、コミュニケーションを深める活動を行っています。



笠松町道徳教育連絡会議

父親委員会では、家族参観日」と題し、父親が主体となって企画し子どもとともに催し物を創り出したり、母親委員会においては「祖父母参観」など子どもだけでなく家族や地域のかたちたちとのふれあいの場を企画し実行しております。



また、子ども達の活動としてコーラス・読書・スポーツなどのクラブがあり、それぞれのクラブを通じて、家族ぐるみのコミュニケーションを創り出しています。

「教育」という言葉を使いますが、私たち親や先生がた、地域のかたには先程述べた「ともに」をもとに「共育」という視点でふれ合えていけば、より一層のつながりが出来るのではないかと思います。

PTA会長という役職もあらずかで終わりますが、この「共育」という言葉を大切にして今後学校や地域のかた達と接して行きたいと思っております。

笠松小学校PTA

会長 梶 邦裕

教育委員会
だより

児童虐待の早期発見 児童虐待と地域の役割

「子どもを虐待から守るための5か条」

- 一、「おかしい」と感じたら迷わず連絡（通告）
- 二、「しつけのつもり……」は、言い訳
- 三、ひとりで抱え込まない
- 四、親の立場より子どもの立場
- 五、虐待はあなたの周りでも起こり得る

（厚生労働省・内閣府より）

本来家庭であたたく見守られ、育まれるべき存在である子どもが虐待を受けることなどあってはなりません。しかし、虐待は「見えにくく、手が打ちにくい」ため、全国で不幸な事件が起きています。また、「近所のかたが、おかしい」と感じてもプライバシーに関することなので言い出せないことが多くあります。ここには、こんな意識があります。

この家の子のことは他人が口を出すことではない。近所つき合いもあるから、

気になっても言いにくい。他の家のことだから放っておけばいい。などだが、先の5か条の根底にあるのは、「子どもの命を最優先・子どもの立場で判断」、「通告は義務」、「地域のみんで育てる」などの考えです。

大人社会の影響を直接受けてしまう子どもたち。次のことを大切にして、大人が連携し支え合って、虐待を防止・早期発見し、子どもを守っていききたいものです。

地域の大人が仲良くなつて、情報交流・相談をしよう。
民生委員さん、主任児童委員さんなどに相談しよう。（役職で動ける）
何か感じたら、すぐ教育委員会へ電話などで連絡しよう。

